平成 30 年 3 月 16 日

平成 29 年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）参加報告書

九州大学附属図書館

大田 海

このたび、平成 29 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、台湾の国立臺灣大學圖書館等を訪問し調査研究を行ったので、以下のとおり報告する。

1. 訪問期間

平成 29 年 7 月 30 日（日）～8 月 5 日（土）

2. 訪問先 / 担当者

- (1) 国立臺灣大學圖書館 / Ms. Yi-Chun
- (2) 国立臺灣科技大學圖書館 / Ms. Wei-Chung Teng
- (3) 国立清華大學圖書館 / Ms. Christine Yu
- (4) 国立成功大學圖書館 / Ms. Ching-Chun Lo

3. 調査研究テーマ

台湾の大学図書館における国際化に即した情報リテラシー教育

4. 調査研究の目的

海外の事例から、大学の国際化に即した情報リテラシー教育を拡充するための新たな知見を得ることを目的とした。具体的には、グローバル人材の育成と留学生支援の双方向から、図書館ツアー及び図書館による講習会（eラーニング含む）の実施状況について聞き取り調査を行った。調査対象国は、近年の大学間協定の増加等の影響もあり留学生交流が促進されている東アジア諸国において、2011 年より英語による学位プログラムへの財政補助のための審査制度が取り入れられるなどわが国と似通った状況にある台湾とした。訪問大学は、国際化を目標とした重点大学に指定され補助金を獲得した大学及び英語による学位プログラムへの財政補助を獲得した大学から選定した。

5. 成果

訪問大学 4 校の留学生支援及び学習支援に携わるライブラリアンに、事前に送付した質問リストに基づき、インタビューを行った。ここでは、各大学の留学生向け人的支援につい

での聞き取り結果を成果として報告する。

臺灣大學では、サブジェクトライブラリアンが教員や学生と図書館をつなぐ役割を担っており、今後開催予定である英語による図書館の講習会も教員からの要望をくみ取り、彼らが企画をすすめているとのことだった。図書館ウェブサイトの **Find Your Subject Librarian** のページに連絡先も掲載されており、留学生からもコンタクトが取りやすい環境が整っていた。また、ウェブ上の英語による電子ブックやデータベースの利用ガイドを学生インターンに作成してもらうなどの取り組みもされていた。訪問した他の 3 つの大学でも、国際化志向を持つ英語の堪能な学生を、図書館のボランティアやアルバイトとして採用し、留学生向け図書館ツアーのコンダクターを担当してもらっている事例が紹介された。臺灣科技大學は、小規模の大学で、館長を含め 17 名のスタッフで図書館を運営していることもあり、留学生をサポートする特定のスタッフは存在せず、上記のような学生アルバイトと協働して、図書館ツアーなどの留学生支援を行っていた。清華大學では、**Service and Innovation Division** の 6 名のスタッフが、ウェブサイトの英語化などを含むバイリンガルなサービスの提供を担当していた。地域住民を含めた図書館ボランティアが業務のサポートを行っていることが特徴的で、図書館ツアー等も学生ボランティアと協働で行っていた。成功大學は、訪問したなかで、最も積極的に図書館で留学生支援及びグローバル人材の育成を行っている印象を受けた。講習会を企画担当する **Information Services Division** の 4 名のスタッフから、学部向けの英語によるツアーや講習会、講師を招いての講演会の開催といった事例が紹介された。講演会の企画や講師の選定は、スタッフの人脈や関心に任されている部分が大きく、そのためスタッフのモチベーションが高く維持されていた。

6. 所感

訪問した 4 つの大学は、それぞれ規模や人的資源、組織体制が異なっていることもあり、留学生支援の取り組みにも濃淡があった。そのなかで共通の課題となっていたのは、日本での状況と同様に、英語対応能力のある人材の不足であった。留学生支援を担当する部署においても、現状は英語による講習会の講師を担当できる人材は限られていた。それゆえ、成果であげた聞き取り結果でも触れている通り、教員および学生との連携、オンライン利用ガイドや e ラーニング教材の整備、外部講師の招へい、などを活用しながら、バイリンガルな図書館サービスの提供に尽力されている姿に共感を覚えた。各大学の個別の取り組みはもちろん、今後も国内外の留学生支援の動向に注目して、業務に活かしていきたい。